

令和6年度診療報酬改定 III-7 薬局の地域におけるかかりつけ機能に応じた適切な評価、薬局・薬剤師業務の対物中心から対人中心へ転換の推進、病院薬剤師業務の評価-①

## 薬局から医療機関等への情報提供に係る評価（服薬情報等提供料）

- 服薬情報等提供料 1 30点
  - 医療機関（医科、歯科）からの求めによる医療機関への情報提供
  
- 服薬情報等提供料 2（評価の見直し） ※患者等に対する情報提供に伴う評価は廃止
  - 薬剤師が必要性を認めた場合における以下に対する情報提供
 

イ 医療機関（医科、歯科）への情報提供	20点
□ リフィル処方箋調剤に伴う処方医への情報提供	20点
ハ 介護支援専門員への情報提供	20点
  
- 服薬情報等提供料 3 50点
  - 入院前の患者に関する医療機関への情報提供

（残薬に係る情報提供の留意点）

残薬に係る情報提供に関しては、単に確認された残薬の状況を記載するだけではなく、その後の残薬が生じないために必要な内容を併せて記載するとともに、情報提供後の当該患者の服薬状況を継続して把握しておくこと。



○ 服薬情報等提供料 1・3

情報提供

医療機関からの  
情報提供の求め



○ 服薬情報等提供料 2

薬剤師が必要性を認めた場合の情報提供



## 介護支援専門員への情報提供について

### 服薬情報等提供料2八

介護支援専門員への情報提供に当たっては、「多職種連携推進のための在宅患者訪問薬剤管理指導ガイド」（令和4・5年度厚生労働科学研究費補助金 長寿科学政策研究事業 薬学的視点を踏まえた自立支援・重度化防止推進のための研究）等を参照されたい。また、介護支援専門員への情報提供については、「多職種連携推進のための在宅患者訪問薬剤管理指導ガイド」別添の報告書様式及び薬学的評価シートを参考にすること。

#### ○介護支援専門員への情報提供時に参考とする薬学的評価シートと情報提供様式

##### 患者の生活様式を評価するための薬学的評価シート

薬学的評価シートにおける評価項目：

- ①検査値、②睡眠、③認知・感覚器機能、  
 ④食事・口腔ケア、⑤歩行・運動機能、  
 ⑥排泄、⑦薬物有害事象

##### （例）排泄の項目

（排泄状況、排尿障害の有無、排便障害の有無、排尿・排便障害治療薬の有無等を記載）

排泄	精神状況	排尿回数：1日_____回（日中_____回 夜間_____回） 排便回数：1日_____回（日中_____回 夜間_____回）または、便に_____回 サムラ着用：□なし □あり
	排尿障害	尿漏れや失禁・夜尿症・尿意切迫感・その他（ ） 影響を与える薬剤：
	排便障害	□なし □あり（便秘・下痢・便失禁・排便感・腹痛感・その他（ ）） 影響を与える薬剤：
	排泄・排便障害 治療薬	□なし □あり 定期薬： 非定期薬：
	特記事項	

国立長寿医療研究センター

薬剤師向け「多職種連携推進のための在宅患者訪問薬剤管理指導ガイド」の公開



##### 介護支援専門員への情報提供様式

【服薬管理状況まとめ】 残薬等の服薬状況に係る情報を記載
【薬学的評価シートアセスメントのまとめ】 患者の生活様式等の情報収集に基づき実施した薬学的評価を情報を記載

※令和4・5年度厚生労働科学研究費補助金「薬学的視点を踏まえた自立支援・重度化防止推進のための研究」（研究代表者：国立長寿医療研究センター 溝神文博）により